

## 科 目 名

# 歴史学と課題Ⅰ History Ⅰ

2年 前期 2単位 選択

佐藤伸二

## 概 要

21世紀は、一方での国際化、他方での分権化の時代である。地球規模で考え、地域に根ざして活動する事が期待されている。自国の歴史を知り、他国の歴史を知ることが国際人の必須の条件である。

現在の目で過去を見、過去を通じて現在を知る、これが歴史を学ぶことである。歴史像は時代とともに変化する。これは、研究の進展だけでなく、社会の変化とともに過去の事実の持つ意味が変わるからである。

本講では日本の歴史を地域や社会集団ごとに、多様な生活と文化を具体的に描き、国際社会の中でとらえる。このことによって、ややもすれば歴史に対して無関心になりがちな理系の学生諸君に、日本の歴史への関心呼び起こし、時代を切り開いた人々の努力とエネルギーを説く。

## 目 標

- 1) 古代から中世に至る歴史について理解を深める。
- 2) 東アジア世界と日本の交流を考えさせる。

## 授業計画

### 第1回 日本人と日本文化の起源

後期旧石器時代に、日本列島に住むようになった人々が、どのようにして日本的な文化を形成して行ったかを取り上げる。

### 第2回 古代国家の成立と冊封体制

日本における古代国家の成立を、中国文献の記述や、古墳によっても証明できることを示す。倭の五王の朝貢など古代アジアの国際関係についても取り上げる。

### 第3回 大王から天皇へ

大和朝廷では大王が関東から九州にいたる地域の統一、倭を改めて日本と称すること、唐による天皇の称号の公認、律令制の採用、奈良・平安京の造営と貴族政治の展開を取り上げる。

### 第4回 東アジアの変動と渡来人

動乱の東アジアから三期にわたる渡來人の動向と役割、大和朝廷の外交と周辺諸国・諸地方の関連、東アジアからの文化の移入を取り上げる。

### 第5回 律令政治の展開と蝦夷・隼人

律令政治の展開、蝦夷と隼人の平定による統治地域の拡大、古代国家の成熟をみる。

### 第6回 古代女性の諸相

古代女性の多様な分野での活躍について取り上げる。

### 第7回 小テストと講評

今まで学んだことを整理させ、基本的な用語を確認させる。

### 第8回 貴族政治から武家政権へ

権門勢家の権力独占と地方政治の変質を取り上げ、武士の誕生、平氏政権、鎌倉幕府の成立、将軍と御家人、領主と百姓など封建制的諸関係を学ぶ。

### 第9回 中世農民の成立と荘園公領制

公地公民制とその変質、荘園の拡大、国司を訴える百姓、古代の公民から中世の百姓へ、百姓の変質を学ぶ。

### 第10回 中世の天皇と将軍

鎌倉幕府以来の天皇と将軍の権力について学ぶ。保元・平治の乱、承久の変、権武の中興、南北朝合一、日本国王源義満を取り上げる。

### 第11回 中世の政治と社会

守護大名による領地支配、将軍と戦国大名、戦国大名の出自、下克上とは何か、古代的権威の失墜を学ぶ。

### 第12回 中世の国際関係

平氏と日宋貿易、蒙古襲来、日明貿易と倭寇、秀吉の朝鮮出兵を取り上げる。琉球王国の盛衰についても学ぶ。

### 第13回 寺院と神社

飛鳥仏教、南都六宗七大寺、比叡山延暦寺と高野山金剛峰寺、鎌倉新仏教を取り上げる。熊野信仰・五山の制についても学ぶ。

### 第14回 小テストと講評

今まで学んだことを整理させ、基本的な用語を確認させる。

### 第15回 定期試験

## 授業方法

中学・高校で学んだことを随時質問をしながら講義によって授業を進め、テキストの関連部分を音読させる。

## 学習到達度の評価

- ① 授業中に教員より質問し、理解度を確認する。
- ② 授業に関連したことについて、レポートを書かせて発展学習を促す。
- ③ 2回の小テストと学生からの質問で到達度を確認する。

## 評価方法

定期試験（80点）・小テスト（10点）・レポート（10点）の成績によって判定する。

## 教 材

テキスト：荒木敏夫・保坂 智・加藤哲郎『日本史のエッセンス』有斐閣（1997）

## 科 目 名

# 歴史学と課題Ⅰ History Ⅰ

2年 前期 2単位 選択

西村正顯

## 概 要

高等学校において日本史が必修教科から外されて久しい。グローバル化が進んだ現在、仕事をする中で外国人と交わる機会が多くなっている。外国人は自国の歴史を堂々と自信をみなぎらせて語るのに、日本の若者が祖国の歴史を語れないのは実に残念なことである。

本講では、日本の古代・中世の歴史を東洋のそれと関連付けながら、我々の祖先がどのように活動し、時代を切り開いて行ったかを解説する。

## 目 標

- 1 古代・中世の歴史を連続性のあるものとして理解する。
- 2 日本人は、外来文化をどのように咀嚼し、独自の文化へと昇華させていったかを理解する。

## 授業計画

### 第1回 文化のはじまり

縄文文化とは、弥生文化とはどのようなものであったのか、その真の姿について考える。

### 第2回 大和政権と古墳文化

古墳の全国への拡大、その形状や副葬品の変遷などを見ながら、また中国の文献とも照合し、大和政権による国土統一の過程を考える。

### 第3回 聖徳太子と飛鳥文化

隋が中国を統一し、東アジアが激動の時代に入る中で、聖徳太子は中央行政機構を再編成に取り組みしながら、隋との交流もおこなった。聖徳太子の政治の意味と飛鳥文化の発展について考える。

### 第4回 律令国家の成立

世界的大国家となった唐を手本として律令制度を完成し、中央集権的国家体制ができあがった。ここでは、大宝律令と官僚制及び農民の負担について検証する。また、遣唐使についても考える。

### 第5回 聖武天皇の政治と天平文化

奈良時代の政治、特に聖武天皇の治世とその文化、さらには藤原氏の政界における地位の確立過程を考える。

### 第6回 桓武天皇の政治と平安仏教

奈良時代の鎮護国家の仏教から脱皮し、政治を刷新した桓武天皇の政策を軸に、平安初期の政治と文化を考察する。

### 第7回 摂関政治と国風文化

他氏排斥に成功した藤原氏の中で、最終的に権力を握った北家が摂関政治を展開した時期は、日本独自の文化が育まれた時代でもある。この時代の政治・文化・仏教を考察する。

### 第8回 武士の発生と荘園

摂関政治は一方で地方政治の乱れも生じさせた。治安の乱れから自衛のために武装した有力農民が、武士団を結成し、貴族に利用される立場から次第に政権を左右するような力を蓄えていく過程を考察する。

### 第9回 院政と平氏政権

上皇が私的な立場で政治を動かす院政は様々な混乱を生じさせた。院政下で起きた混乱と、そのなかで政権を掌握した平清盛の政治をみる。

### 第10回 鎌倉幕府の成立と執権政治

鎌倉幕府を開いた源氏は3代で絶え、北条氏が執権として権力を掌握していく過程について考察する。

### 第11回 元寇から鎌倉幕府滅亡へ

執権北条時宗が元の襲来を撃退したときに鎌倉幕府権力の絶頂期であった。しかし、元寇の悪影響は甚だしく幕府は急速に衰退していく。この回は、元寇から幕府滅亡に至る過程を検証し、どこに問題があったのかを考える。

### 第12回 鎌倉時代の社会と文化

鎌倉時代には農業生産力が大いに向上し、それにつれて商業や手工業も発達した。政治権力を掌握した武士だけでなく経済力を身につけた少しずつ文化の担い手となっていった。この回は、鎌倉時代の社会の発展と、それを背景にした文化や宗教について考察する。

### 第13回 室町幕府の成立と勘合貿易

南北朝の動乱を経て室町幕府が成立したが、その権力基盤は強固とは言い難いものであった。3代将軍義満は内政と外交に手腕を発揮して幕府の全盛時代を築いたが、幕府の権力を強化した義満の政策を中心に室町幕府の政治を検証する。

### 第14回 室町時代の社会と文化

この時代は、農業・手工業・商業が著しく発展し、庶民が文化の担い手として活躍するようになり、一方で禅宗影響を受けた現在につながる芸術や建築などが多く現れた。具体的にどのようなことが起こったのかを検証することにより、社会状況と文化のつながりを考察する。

### 第15回 定期考査

前期授業の理解と学習到達度を評価する。

## 授業方法

テキスト及び各時限に配布する資料をもとに講義を行う。

## 学習到達度の評価

毎時間その授業についてレポートを書かせ、授業の理解度を把握する。

授業においては極力質問を発し、学生に歴史上起こった事象について「何故？」と考えさせ、学生の思考態度を評価する。

## 評価方法

毎時間書かせたレポートと定期試験の成績で評価する。

配点はレポート50点、定期試験50点とする。

## 教 材

テキスト「日本史のライブラリー」（とうほう）、配付資料ほか

## 履修上の注意

- 1 歴史的な事象について「何故？」という気持ちで、自ら授業に積極的に参加し考える。
- 2 各時間の内容をしっかり押さえる。そのためのレポートである。